

地元の神話に関心を

加古川青年会議所が加古川市民500人にアンケートしたところ、日本平定に尽力したという伝説の英雄「倭建命」(通称・ヤマトタケル)が、同市ゆかりの人物と知っている人はわずか9%だったことが分かった。「加古川」の名の由来を知る人も13%にとどまった。同会議所は結果を受け、郷土の歴史を知ってもらおうと、「神話」をテーマにしたフォーラムを9月に開催する。(安藤文暁)

加古川青年会議所がアンケート

アンケートは今年1月3月、同会議所の関係者100人に加え、一般市民400人に駅前や商業施設で聞き取った。その結果、地域への愛着が「ある」と答えた人は49%に上ったが、「考えたことがない」も32%に。ただ、

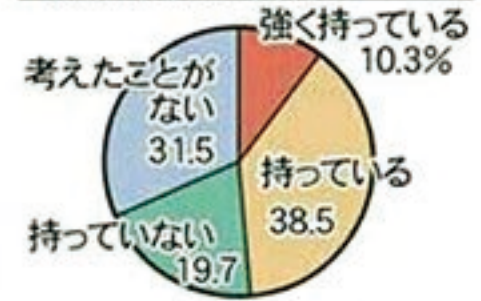
郷土の歴史を「学びたい」と考えている人は半数を超えていた。同会議所などによると、市域は古事記(712年)や播磨国風土記(713年)の重要な舞台だが、知っている人は減っている。ヤマトタケルは景行天皇が氷丘地区出身と

ヤマトタケル生誕地は? → 正解9%

■ ヤマトタケルの生誕地は



■ 加古川地域に愛着は



来月28日 フォーラム開きPR

いわれる稲日大郎姫命に求愛して誕生。その際、日岡神社の主祭神である天伊佐佐比古命が安産を祈願したと伝えられ、同神社の近くには産湯に使ったとされる石の鹽が残る。

一方、加古川の古名の一説「鹿兒」は播磨国風土記に登場し、景行天皇が氷の丘(現在の日岡山)から眺めた加古川河口の大洲が、鹿の子のように見える、などと記される。フォーラムは9月28日、市民会館で開催。「神話からつながる郷土の歴史と日本のこころ」と題し、作家竹田恒泰氏らの講演や討論のほか、舞台演技も予定している。

担当者は「国と地域を知り、育もうと思う心を広げる機会にした」とする。同会議所
☎079・423・3076